

大阪・関西万博開催に向けた御意見

御所属 跡見学園女子大学文学部 講師

御名前 寺本 敬子 様

1. 2025年の大阪・関西万博に何を期待しますか。

(是非するべきこと、また、するべきではないこと、後世に残すべきもの等)

私は、フランス史（近現代）を専攻し、これまで主にパリ万国博覧会および日本の参加について調査研究してきました。万博の特徴および歴史的経緯をふまえ、2025年の大阪・関西万博に期待することを以下に述べたいと思います。

(1) 「普遍的」・「全世界的」博覧会の追究

万国博覧会は、19世紀半ばにヨーロッパで誕生しました。フランスでは、主に19世紀後半に計6回のパリ万博（1855、1867、1878、1889、1900、1937）が開催され、万博の基礎が構築されました。フランスにおいて万博は「Exposition universelle」と称され、「普遍的」かつ「全世界的」を意味する「ユニヴェルセル universelle」な博覧会の実現が追究されてきました。万博の国際基準を定めた国際博覧会条約は、1928年にフランスが主催したパリ国際会議により制定され、博覧会国際事務局（BIE）の本部はパリに設置されました。以来、この条約に基づき、BIEの統轄のもと、万博（国際博）が運営・開催されています。

→特定の分野に限定されない「普遍性」、特定の国家を超えた「全世界的」博覧会を追究。

→現在の万博：1994年のBIEの決議以来、国際博覧会を人類共通の課題解決の場と再定義。

→持続可能な開発目標（SDGs）は、2030年を目標に、先進国・発展途上国がともに取り組むユニバーサル（普遍的）なものであり、万博における「普遍的」・「全世界的」理念と一致する。

(2) 人類の「知」の交流：「国際会議」の本格的な復活へ

19世紀後半の万博では「モノ」の展示だけでなく「国際会議」が同時に開催されました。度量衡の統一、特許制度など、一国では解決できない問題をはじめ、多様な分野の諸問題について、参加各国の専門家が集結し、議論されました。これらの国際会議は、政治的・外交的な会議とは区別される専門家の会議として重視されました。この議論内容は報告書にまとめられ、政治・外交の場での決定、さらに社会への専門知識の普及に影響を及ぼしました。

→しかし20世紀以降、万博における知の交流（国際会議）は縮小化の傾向にある。それぞれの専門分野も学会内での議論に収まる傾向がある。

→2025年の大阪・関西万博において、とりわけ国際的に解決すべき普遍的問題について「知」の交流の場（国際会議）を同時開催してはどうか。これらの国際会議は公開とし、他に一般参加型のワークショップ等を導入し、社会全体における知の交流を促す。

→2025年を皮切りに「万博と国際会議の同時開催」を定着させることは、「大阪・関西万博」の名を将来に残すこと（レガシー）に繋がるのではないか。

Cf. 気候変動の問題：この問題は、現在狭い学問区分を超えた主題となり、2015年パリ協定以降ますます重要な 이슈となっているが、真に国際的・学際的な意見交流の場がないと聞く。

(3) アジアにおける万博の運営・研究の拠点へ

アジアにおいて最初の万博開催となった1970年大阪万博を契機に、近年の万博は、とりわけアジア諸国での開催が目立っている（Cf. 1993年大田、2010年上海、2017年アスタナ）。万博の開催地は、かつてヨーロッパおよびアメリカが中心であったが、今後アジアが中心的役割を果たしていくことが予測される。Cf. 中国（上海）：2017年にBIE認定の「Expo Museum」を設置
→1970年大阪万博以来、万博経験（登録博・認定博）の最も多い日本が、アジア諸国と交流し、アジアにおける万博の運営・研究の拠点として役割を果たして行くことが期待される。

*BIEのアジア支局兼研究所の設置

2. 大阪・関西万博で見せるべきコンテンツは何でしょうか。

（例：最先端技術の実証、SDGs達成への貢献、ライフサイエンス分野との連携等）

「モノ」と「人」：新たな価値を生み出す開かれたプラットフォーム

万博は、「モノ」の展示、「人」の交流を通じ、新たな価値を生み出す場として機能してきました。ルイ・ヴィトン、バカラ、ティファニーなど、現在のトップブランドの多くは、19世紀の万博で展示され、高い評価を受けることで、国際的に認知されました。開国したばかりの日本も、幕末から万博に参加することで、とりわけ外交・産業・文化の分野において交流を深めました。19世紀にヨーロッパで誕生した「ジャポニスム」も万博への日本の参加を機縁としています。

ただし19世紀の「ジャポニスム」は、近年の「ジャポニスム 2018」と次の点において異なることに留意しておきたいと思います。すなわち19世紀の「ジャポニスム」は、発信者の明確な意図に基づいて生じたのではなく、「万博」という場で、芸術のみならず、産業や社会の諸問題など、諸外国の複合的な要因のもと、ある種偶発的に生じた点にあります。

→このような歴史的経緯を振り返ると、一定の目標を設定することは重要であるが、できるだけ開かれたかたちで「モノ」の展示と「人」の交流を促し、新たな文化や産業を生み出す万博を作ることが重要ではないか。

3. 会場計画及びインフラ整備について、新たなアイデアや御意見をお願いします。

（例：会場のデザイン、水面や緑地の利活用、待ち時間のない万博とするための手法、災害対策、暑さ対策等）

4. そのほか、御自由に御意見をお願いします。

→2025年の大阪・関西万博の開催に向けて、現在の私たちがどのように考え、議論し、何を選択し、実行していくのか。これらの事柄そのものが将来へのレガシーとして、残すべき財産となります。万博の準備段階から開会・閉会にいたるまで、資料保存の徹底をお願いしたいと思います。